

近事

□本號口繪原色版は、昨年大橋氏が韓國滞在中の作にして、原圖はワットマン四ツ切大、前に横はつてゐる黄色のものは荷を背にして休息せる牛なりとの事に御座候

□中繪の夏の夕は日本水彩畫會研究所の相出寅彦氏の作に候、他の一葉は會友松岡氏の昨年寄稿せられしものに御座候

□次號の本誌講話には、石川氏の『美術叢談』。大下氏の『靜物寫生の話』。他に丸山氏は久し振にて『雀の研究』なる一論文に執筆せらるゝ筈にて、雜錄には、大下氏の日本アルプス信濃上高地の寫生紀行を登載すべく、挿繪は上高地附近の景勝原色版小形四版、全しく大形一葉、石版葉、寫真版二三版を挿入致すべく候

□日本水彩畫會開催の水彩畫夏期講習會の事は別項記載の通りに御座候、吾等は徒らに會員の數の多きを冀はず、たゞ熱心なる人々の參集を得たく存候

講習會へも時に出席せらるべし
△英國ニューマン製の水彩繪具數十種文房堂に到着せり

紹介

◎繪畫獨習書 大日本國民中學會編

神田區駿河臺袋町

東京國民書院

菊判洋裝二八〇頁正價金壹圓

油繪、水彩、鉛筆、木炭畫等の技術及美術の理論とを説明せしものにして、理論は技術に勝りて一讀の値あり。説く處孰れも曾て一度新聞雜誌書籍等に出でたる各専門家の説を、巧に湊合取捨して一の文章となせしもの多ければ、時に前後一貫せざる點なきにあらず、されど初學の士に解し易やきう説明しあれば、たゞこれ一冊のみにて繪畫に關する知識の凡てを學び得べきにあらずと、其一班には通ずること難からざるべし

△全會出品畫のカタログは、版畫約四十點を藏め、美麗なる裝釘を施して、開會當日迄に本郷湯島切通坂町畫報社より發賣すべし、定價は一部五十錢の豫定なりといふ

△石川欽一郎は、臺北に在て公務の傍ら水彩畫普及に盡力せられつゝあるが、八月には一時歸京さるべく、鎌倉に於ける